

私たちの会費が日本平和委員会と茨城県平和委員会の活動を支えています



土浦平和の会

ニュースNo.176 2007年 1月

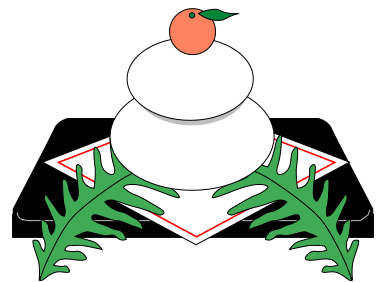
発行 土浦平和の会

事務局 土浦市神立町2664-2

TEL 831-9122

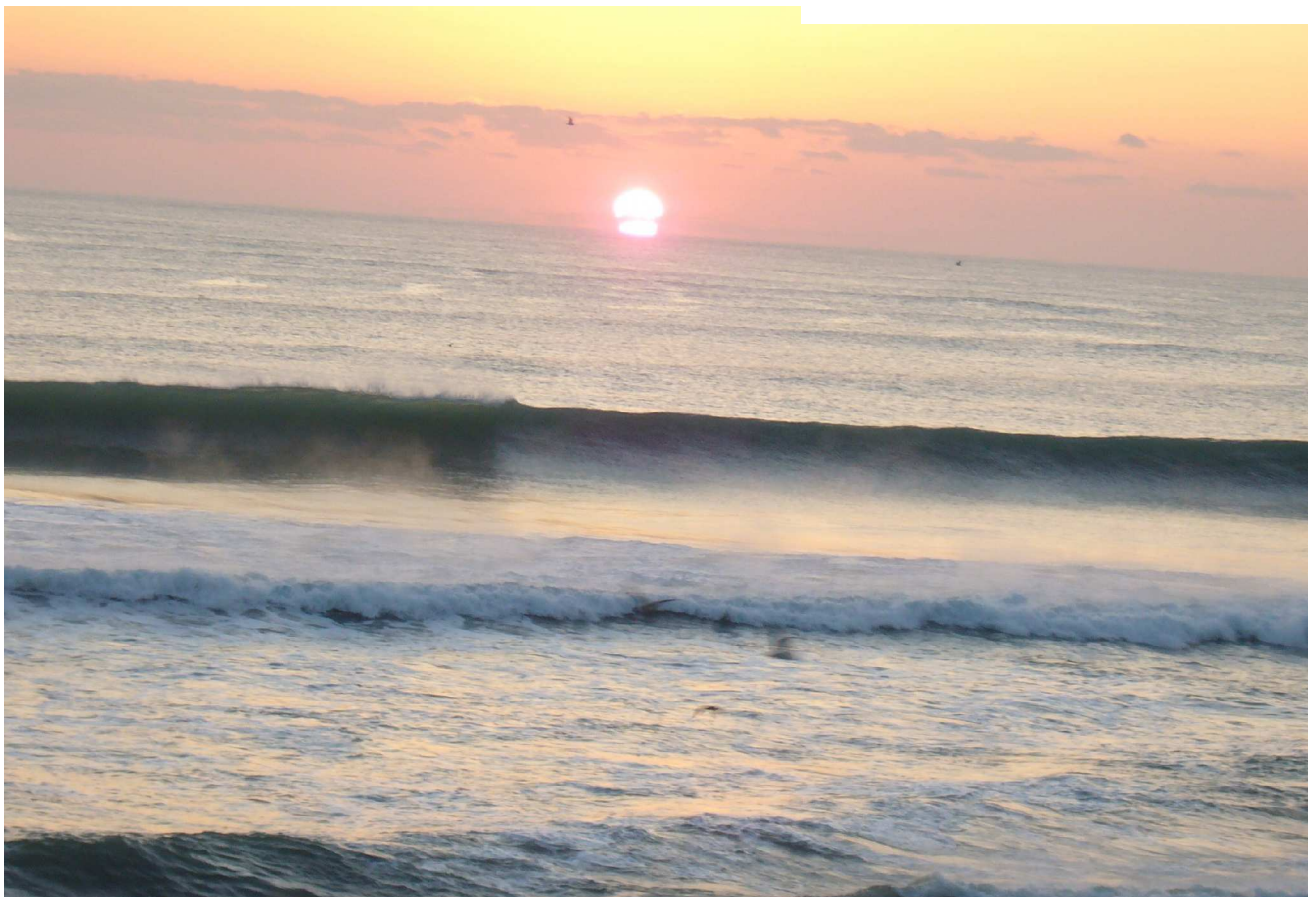
URL http://www.geocities.jp/ino011_jp/

迎春



平和とくらし

を守ろう



平和の会ニュース、平和かわら版（PDF版）配信しています
早い、確実に届くご希望の方はeMailアドレスご連絡ください

私たちの会費が日本平和委員会と茨城県平和委員会の活動を支えています

日中戦争 なぜ戦争は拡大したのか

動き始めた列車は止まらなかった

台湾で公開された“蒋介石の日記”などの資料に基づいて、今年の夏 NHK スペシャルで放映された“日中戦争 なぜ戦争は拡大したのか”を見直してみた。盧溝橋事件の後、戦線不拡大、早期解決を図ろうとする近衛内閣に対して“対支一撃論”を唱える武藤章ら陸軍参謀本部の強硬派が戦線を拡大していった経過がよくわかる。上海事変（シナ事変）当時のドイツやロシア、アメリカの対応や日本の現地軍独走と参謀本部による追認の経過についても基本史料を基に“なぜ拡大したのか”についてはわかりやすい説明をしていると思う。

終戦60年のNHKの特集“日米開戦の真相”ではすでに日中戦争から南方進出への時期に“なぜ日米戦争を避けられなかったのか”を解き明かそうとしていたし、“真珠湾への道”では、日米開戦に反対しながら御前会議の決定に従って、真珠湾攻撃の作戦を実行する山本五十六海軍大将を描いている。しかし、戦線不拡大、開戦反対の意見がありながらも開戦に至る経過について解明する報道が無かったように思われる。

「御前会議」の決定が最終決定

“日本の戦争 不和哲三さんに聞く（共産党出版局）”を読んで、この点について納得できる解説が得られると思う。「南進論」が出てくるきっかけはドイツの“西部戦線電撃作戦”の勝利によるフランス・オランダの降伏という事件があったこと。その直後の陸海軍協議「世界情勢の推移に伴う時局処理要綱」の中で「**対米戦争はできるだけ避ける努力はするが、武力を行使する場合があることを予期し、準備を進める**」と決定し、ドイツとの間に「日独伊提携強化案」が作られた。具体的内容は「ドイツによる欧州新秩序」と「日本の東亜新秩序」というもので、日独両国の勝手きわまる世界支配計画であり、第2次近衛内閣はこの方針を確認した上で成立した内閣であったというのです。そこにはアメリカに対する配慮はあったとしても「南進方針」は既定方針でした。陸海軍首脳によるこの方針はその後の基本方針として受け継がれていきました。

1941年（昭和十六年）**7月2日の「御前会議」では“対米英戦を辞せず”という重大決定**をおこないました。日本軍の南部仏印進駐に対して「石油禁輸」が行なわれた後、**第2回目の9月6日の「御前会議」**でも米英の情勢変化を知ってか知らないでか、最小限度の要求事項として「中国問題への不干渉」「所要物資の供給」という身勝手なことを決定しています。近衛内閣辞職後の11月5日東条内閣の**第3回目の「御前会議」**でついに「**12月初旬開戦**」を決定した上でアメリカとの交渉に入ります。「中国からの日本軍撤退」を求める「ハル・ノート」が提示された11月26日は真珠湾攻撃の機動部隊が出撃したその日であったというのです。日本の要求は事前に解読されて蒋介石も知っていたし、この虫のいい要求を蒋介石が呑むはずもありません。しかも「御前会議」の決定は重く変更不可能だったのです。動き始めた列車はもうこの時点で止めようがなかったのです。

井上仁志 記

活動ごよみ

1・20 九条の会うたごえ広場（亀城プラザ）
1・23 平和の会理事会（保健生協事務所）

1・27 県平和委理事会（水戸市赤塚ミオス）